

「国華社」(1889 年創業)と並んで日本・東洋美術史研究の一翼を担ってきた「審美書院」は、1902 年光村利藻による「大日本真美会」(「日本仏教真美協会」解散後)が、その画帖『真美大観』発行権獲得を以って、その事業を改善拡大して 1903 年創立される。その直後、世界最大・最多色の豪華木版画「孔雀明王像」をセントルイス万博(1904)に出品・名誉金牌を受賞する。しかし、事業不振の責めを負って、「関西写真製版印刷合資会社」(1901-1906)、「光村合資会社」(1906-1909)経営破綻後、「光村印刷株式会社」(1909)設立を目途に利藻は「審美書院」を 1906 年に株式会社化する。資本金 11 万円、筆頭株主に宮内大臣・田中光顕[1843-1939]を据える。彼は持ち株 40 株を売却・退陣した後、1911 年、野口駿尾^註は主幹の一人として運営を引き継ぐ。日本画家・野口は 1916 年日本の「南洋群島」占領に刺激され、海軍御用船「吉野丸」に乗船してマリアナ、カロリン、マーシャルの各諸島を巡行した。1917 年その成果を前南洋群島防備隊司令官海軍中将・東郷吉太郎題歌挿入の画集『椰子の下風』として刊行した。同画集に挿入された第 36 図の「ヤツブ島アバイの装飾画」は石版印刷である。

野口駿尾は 1930 年代前半に「審美書院」の六代目社長となるが、経営に不案内だったため、北大路魯山人ゆかりの料亭「星岡茶寮」(1881-1945)の会員だったことが縁で知り合った便利堂四代目社長・中村竹四郎を常務取締役(兼任)に迎え、この出版社を経営した。1939-40 年合同会社「美術書院」設立後、1944 年便利堂に合併される。

「日本窒素肥料」を中心とする日窒コンツェルンを一代で築いた野口遵は実兄であり、遵の親族が「審美書院」の筆頭株主となっていた。1943 年 5 月「日本版画奉公会」が結成され、会員名簿に「京橋区銀座西三ノ三審美書院／野口駿尾」と記載されている。野口による版画の実際の作品は見当たらないが、高度な複製木版を図版掲載してきた「審美書院」の社長としての加入であったと推定される。なお、『日本窒素事業大観』に挿入された野口駿尾監修南政善筆「朝鮮事業絵図」(p.190)の洋画家・南政善は娘婿にあたる。

一方、光村印刷は 1902 年頃から実用化されていた写真版による 3 色刷について 1907 年から 3 年契約で 3 色版技師ヘルマン・トブナーを招聘し、『図録』カタログ、月刊誌、商業印刷物などで令名を馳せ、更生新会社「光村印刷株式会社」(1909-)で製版技師・安雲宗一はトブナーの指導下、人工着色による 3 色版(+墨版)の 4 色刷、独自の「原色版」(人工着色版)を開発・成功し、「原色版」の光村としての名声を不動のものとした。1928 年「光村原色版印刷所」と改名し、利藻は会社経営を解任され、設備・技術面の向上により、大量生産性を整備し、得意先・受注額も漸次増加することになる。

創立 30 周年『日本窒素事業大観』(1938)豪華本への光村原色版印刷所の関与はない。今回野口兄弟による刊本製作が詳らになったことは大いに成果であった。

利藻が抱いた「仏教・日本画美術を見せる」印刷技術は、結局、株式会社「審美書院」(1906)を経由し、1930 年代になって戦前の政商・野口一族の大口株式取得で、実権を握られ、便利堂が経営陣としてそこに加わり、終戦までに『日本窒素事業大観』を頂点とする印刷技術の集大成を遂げて、戦後、便利堂が「原色版」技術を仏教・古利美術

領域で開花させることになる。利藻は複雑な心境であったと推察される。散財の果てにとは言え、「理想」を持っていかれたという垂涎的と捉えていたのではないだろうか。

現在の光村印刷は、合併した細川活版所を通じて、『日本室素事業大観』の存在を初めて知り得たようであるが、当時の技術水準の査定を、初期の大作「兵庫縣ペスト流行誌」についても、行なって欲しいものである。

註：野口駿尾(のぐち・としお, 1881-1946)は, 1881(明治 14)年東京に生まれる。1901年東京美術学校日本画科卒業。1906年フランスへ留学し, 室内装飾を学んで帰国。1908年前田侯爵家の本郷にある邸の洋館の室内装飾を依頼される。また, 1910年明治天皇前田邸行幸に際し, 画商・林忠正がフランス滞在中に収集した300点を超える絵画のなかから, 邸を飾る作品を黒田清輝とともに選定する作業に従事した。

【参考文献】

増尾信之編『光村利藻伝』(非売品)光村原色版印刷所, 1964.

社史編纂『写真で見る光村印刷の95年』光村印刷株式会社, 1996.

村角紀子「審美書院の美術全集にみる「日本美術史」の形成」『近代画説』8(1999) / 同『美術家たちの南洋群島展図録』(町田市立国際版画美術館ほか 2008) (滝沢恭司・町田市立国際版画美術館学芸員) 「近代版画家名覧」(版画堂) :

<http://www.hanga-do.com/img/Hangadomeiran117.pdf>

山口須美男「明治期の写真・印刷と出版事情 一付・コロタイプ印刷の実際一」

<http://www.artbooks.jp/Korotaipu.htm>

南政善 :

<http://www.tobunken.go.jp/materials/bukko/9703.html>

<http://www.shikagen.net/hito/minamimasayosi/minamimasayosi.htm>

印刷図書館・印刷史談会 :

https://www.jfpi.or.jp/printpia/topics_detail21/id=3769

写真製版今昔談・菅野群山堂 :

https://www.jfpi.or.jp/files/user/pdf/printpia/pdf_part3_01/part3_01_021.pdf

大日本印刷の誕生(1876-1944) :

<https://www.dnp.co.jp/corporate/information/history/1876/>

熊谷印刷所 : <http://kumagai-print.co.jp/aboutus/history/>

半七写真製版所 : <http://www.hanshichi.co.jp/history.php>

光村利之口述「美術印刷の発達と光村原色版印刷所の歩み『原色版』」(1967)

ヘルマン・トイブナー・v.s.安雲宗一 :

https://www.jfpi.or.jp/files/user/pdf/printpia/pdf_part3_01/part3_01_004.pdf

『東洋インキ 80年史』(1988) :

https://shashi.shibusawa.or.jp/details_nenpyo.php?sid=3470&query=&class=&d=all&page=4

印刷図書館・印刷史談会(全巻) :

https://www.jfpi.or.jp/printpia/topics_detail21/id=3769